

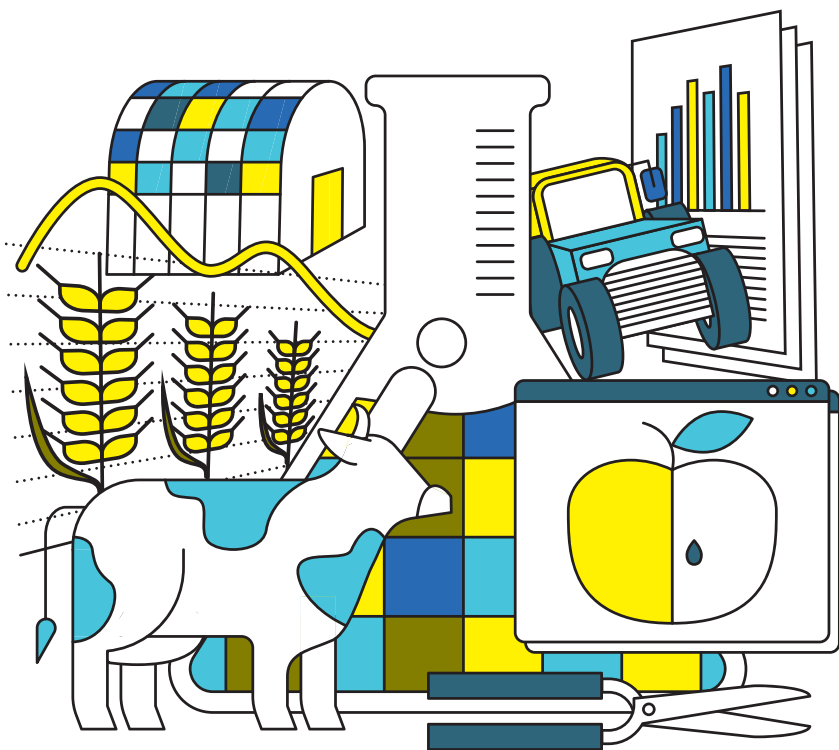
NARO

「広報なる」

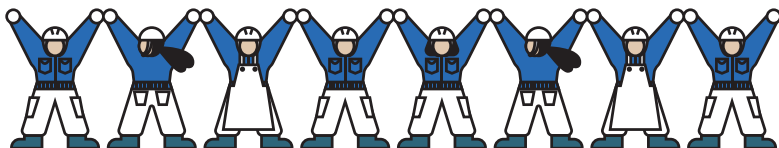
特集

研究を支える
農業エキスパート

National Agriculture
and Food Research Organization



No.
36
2025



研究を支える 農業エキスパート

農研機構で日々繰り広げられている研究の数々。

その成果の裏側には、研究をサポートする

数多くの部署・職員の存在があります。

その中の一つ、技術支援部が今回のテーマ。

農業の知識と技術で貢献する

エキスパートたちの素顔をお届けします。

NARO No. 36 2025

CONTENTS

特集1

03 技術支援部 お仕事探訪

<クロストーク>若手座談会

11 フレッシュなやる気と熱意で 研究活動を支えていく

特集2

09 功労者インタビュー 技術開発の裏側に迫る

NARO TOPICS

13 PRESS RELEASE

WHAT is NARO?



わが国の農業と食品産業の発展のため、基礎から応用まで幅広い分野で研究開発を行う機関です。この分野における国内最大の研究機関であり、全国各地に研究拠点を配置して研究活動を行っています。

WEBSITE



農研機構のウェブサイトはこちらから！
<https://www.naro.go.jp>

VOICE from NARO

専門技術で研究現場を支える

技術支援部 部長 寺内 方克



農

業技術は、既知の情報を整理して技術に立脚した仮説を立て、これを検証することで進化しています。その検証過程では実際に試してみることが求められるため、ほ場や家畜、その他に関する各種試験は研究開発を行う上で必須の工程となっています。その試験を現場で支えているのが技術支援系職員です。多種多様な試験研究に対応して、果樹のせん定やカイコの飼育、家畜や農業害獣の飼育、機械操作など、職員それぞれの専門技術を磨き、必要に応じて研究職員に助言を行うなど研究組織の構成員として欠くべからざるものとなっています。

その活力を高めるため、農研機構では大きく二つの取り組みを行っています。一つは研究開発を底辺から支える技術支援職員の人材育成の強化です。技術の継承と高度化を目指し、知識やノウハウを得るための座学研修や実習の充実と、現場で技術習得を進める際の指導者層への教育訓練の実施による指導力の強化を推進しています。

もう一つは職員エンゲージメントの向上に向けた取り組みです。創意工夫と業務の改善により職員それぞれが属する自組織の働き方を変えていくことを推奨し、そのための知識やスキルを提供、改善マインドの醸成に取り組んでいます。それぞれの部署が自律的に業務を改善して働きやすい環境づくりを行った成果については、技術支援系職員の「技術支援祭」と称する発表会で情報共有し、農研機構内の横展開も図っています。発表された課題の中から、組織内表彰や外部表彰への推薦を行い、毎年、文部科学省の創意工夫功労者表彰を受ける者が出ています。

特集1

技術支援部 お仕事探訪

研究を技術面からサポートし、数々の成果に貢献している技術支援部は、まさに農研機構の縁の下の力持ちです。日頃どんな働きをしているのか探るべく、仕事現場を訪ねました。

01 JOB INTERVIEW

中央技術支援センター
つくば第7業務科
大家畜技術チーム

前野 純

大家畜技術チーム はこんなところ！

実験動物である牛の飼育管理などを行います。農研機構の敷地の中には牛舎や放牧地があり、肉牛や乳牛を飼育しています。



笑顔で牛と触れ合う前野さん。
15年以上、つくばで牛の飼育管理に携わっています。
真摯に牛と向き合う前野さんにお仕事の醍醐味を伺いました。

牛の健康を見守り、
研究の成功に貢献する

牛の健康が一番の喜び。
人も動物も安全第一で

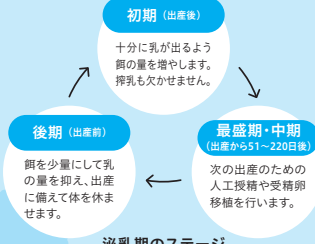
私の役割は、研究・実験が円滑に進むよう、実験で用いられる乳牛を健康に育てることです。出産前後の雌牛の飼育管理が主な仕事で、餌やりや搾乳のほか、病気・ケガの手当てといった体調管理などを日々行っています。そうして飼育した牛は、さまざまな目的の研究に利用されます。例えば、牛がメタンガスを含むげっぷを出さないようにするための餌の研究を行っています。

研究者が牛舎を訪れ、データを観測したり、調査を進めたりする光景がよく見られます。

日々牛と向き合う中で考えているのは、どうしたら彼らが居心地よく過ごせるかということ。元気な姿を見るだけで、嬉しい気持ちになりますね。また、体の大きな牛の世話には危険が伴うことも少なくありません。職員が安全に働ける環境づくりも大切なことです。丁寧に牛と接して健康を保ち、研究の成功につなげたいです。

牛のライフサイクルに 合わせた管理

1年間にあおよそ1頭の仔牛を出産する乳牛は、出産から次の出産までの泌乳期のステージごとに飼育管理の方法が異なります。特に乳をよく出す出産直後の初期と、そこから時間が経過した最盛期・中期、次の妊娠のための準備を行う後期に大きく分けられ、各期間の状態に合わせて餌やりや作業を行います。



泌乳期のステージ

1日のスケジュール

午後

放牧、牛舎の掃除、
餌づくり、
午後の搾乳など

牛を放牧させている間に、牛舎の掃除や餌のブレンドなど、作業を進めます。1日につくる餌の量は約1000kg。機械を用いて飼料を混ぜ合わせます。その後は午後の搾乳や餌やりなどを行い、1日の業務が終了。夜間は機械によって自動で餌を与えます。



11:00 | 発情・妊娠観察

発情期の確認や、妊娠診断、人工授精などを行います。写真は、触診(直腸検査)とエコーによって妊娠状態を調べているところ。手の感覚で子宮内の変化を感じ取り、妊娠しているか否かを判定します。



10:00 | 餌やり

牧草やとうもろこし、小麦などの飼料を混ぜ合わせ、発酵させたものが主な餌です。1頭あたりの一度の餌の量は約6~10kgで、1日4回与えます。しっかりと餌を食べているか、食欲を観察するのも欠かせません。



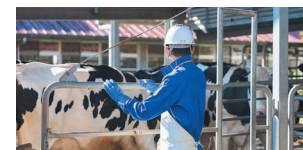
9:00 | 搾乳

搾乳機を用いて午前の搾乳を行います。一度に搾るのは、1頭あたり20~30L。搾乳した生乳はバルククーラーと呼ばれるタンクに保管され、研究に使われるほか、飲料用として飲料メーカーに提供されます。



出勤後 | 牛の健康観察

餌をしっかりと食べているか、体調が悪そうな牛はいないか、機械は故障していないかなど、まずは牛や牛舎の様子を観察します。牛の状態を把握するための大切な時間です。元気な姿を見ると安心して1日を始められます。



特集1

技術支援部 お仕事探訪

02 JOB
INTERVIEW

中央技術支援センター
つくば第6業務科
藤本・大わし技術チーム

飯田 慈

藤本・大わし技術チーム
はこんなところ！

果樹の栽培管理を行い、研究
に必要な素材を用意していま
す。取り扱う果樹は桃や梨、栗
などさまざまです。



朗らかな表情が素敵な飯田さんは、
仕事の話をする時には真剣なまなざしに。
プロとして、先輩として、仕事に取り組む姿勢に迫りました。

時間をかけて果樹と向き合い、
丁寧に栽培管理

経験とともに腕を磨き
後輩に技を伝える

果樹の育種や、新品種の栽培技術の
確立、病害虫防除などの研究サポート
を主に行っています。研究で用いられ
る果樹の手入れが業務の中心で、植え
付けや接ぎ木、摘果、収穫、せん定と
いった季節ごとにさまざまな作業が
あります。

果樹は「桃栗三年柿八年」というこ
とわざがあるように、実をつけるま
で長い時間がかかるもの。8年かけ
て育て、思うように実がつかなかっ
た……、というような事態が起こら
ないよう、果樹の種類によって適切
な栽培管理を行うことが重要です。
時には研究を円滑にするための道具
を工作することもあり、研究者に安
心してもらえるような管理を心がけ
ています。

果樹の栽培管理はマニュアルより
も経験値が求められる場面が多々あ
ります。例えば、樹の生育や着果調整
のために不要な枝を切り落とすせん
定の作業。5年後の枝のつき方を想像
しながら行う必要があり、見た目を
重視するの、光の当たり方を重視す
るの、人によって「どの枝を切っ
てどの枝を残すか」の判断はさまざま
です。自分なりの正解を見つけるまで
は苦労しました。見よう見まねで先輩
の技を学んでいた若手の頃が懐かし
いですね。

自分が後輩を指導する立場になっ
た今は、その時の経験を生かし、ど
ういった指導方法が相手にとって適
切かを考えながら次世代の育成に励
んでいます。



一年を通して行う作業

検討会

研究者と定期的に研究計画につ
いて打ち合わせを行い、作業の内
容やスケジュールを共有します。

防除作業

時期や樹種ごとに異なる害虫
や病気が発生するため、適切
な薬剤を適期に散布します。

肥料散布

果樹に栄養を与えるために肥
料を撒きます。肥料に関して研
究が行われることもあります。

冬

次の栽培に向けた準備

防風林の手入れ

農研機構内には、風よけの
ための防風林が各所に整
備されています。伸びた防
風林の枝を刈り込み、通路
が通りやすくなるように整
備を行います。

伐採、 ばっこん 抜根、 抜根

研究が終了したり、新品
種候補から外れたりし
て、試験を続けたい木は
伐採し、根を取り除きま
す。伐採、抜根した後の
ほ場はきれいに整備し、
次の栽培に備えます。



抜根には大型の機械を用います。



梨の収穫の様子。



収穫した梨のイガを外している様子。

夏・秋

旬を迎える果樹が多く、収穫の時期

収穫

果実を収穫します。異なる
系統の果樹が植えられて
いるため、収穫時に品種
が混ざらないよう細心の
注意を払います。収穫した
果実は、重さや糖度など
の計測、食味試験が行わ
れることもあります。

新梢管理

unnecessary 枝を除去し、必
要な枝に十分な養分を行
き渡らせるために行いま
す。その他、光を遮る枝を
除去することにより、果実
の品質向上や病害虫防
除にも有効です。

春

果樹をよく実らせるための準備

接ぎ木作業

台木と呼ばれる枝に別の樹
を接ぎ合わせ、増殖させるこ
と。種から育てるのではなく
接ぎ木を行うことによって、
その特徴がそのまま引き継
がれます。春になると、500
から1000本ほどを接ぎ木し
ます。

摘花・摘果

摘花とは、果実ができる前
の花を間引き、残された花
に十分な養分を送れるよう
にすること。摘果は、果実が
ふくらんだ段階でさらに間
引くことです。果実を適切な
数にして、養分が行き届くよ
うにします。

1
年間の
スケジ
ュール

特集1

技術支援部 お仕事探訪



03 | JOB INTERVIEW

中央技術支援センター
つくば第3業務科
谷和原畑作技術チーム

吉田 真樹

(現・連絡調整課所属)

やわら
谷和原畑作技術チーム

はこんなところ！

小麦・大麦、イモ類といった穀物や大豆の育種研究をサポートしています。畑と水田による栽培試験が行われています。

広大な大豆畑に立つ吉田さん。
谷和原畑作技術チームで携わっていた、
研究サポート業務について話を伺いました。

さまざまなニーズに合わせた
育種研究をサポート

現在は技術支援部の連絡調整課という部署に在籍していますが、異動前は谷和原畑作技術チームに所属していました。麦やイモ、大豆などの育種研究のサポートがメインで、作業内容は、ほ場を整備するところから播種、栽培管理、収穫まで多岐にわたります。植物によって栽培時期が異なるため、1年間を通して栽培が行われていました。

試験栽培では、研究者と相談しながら作業を進めますが、時には現場にとつて難しいオーダーを受けることもあります。そんな時に大切にしていたのは、初めから「できません」と断るのではなく、どうすれば希望通りに実現できるか考えること。最終的な目標は研究の成功です。無事に栽培を進められるかどうかを最優先に考え、場合によっては新たな方法を提案することもありました。今は現場を離れていますが、研究者から「担当してくれてよかった」と言ってもらえたことは今でも心に残っています。

技術支援部 連絡調整課とは？

技術支援部に所属する職員のサポートを行う部署です。全国各地の研究拠点で働く職員の情報を取りまとめ、若手職員の育成や現場の安全性の管理、使用している機械に関する情報発信などを行います。職員が気持ちよく働けるようにするための大切な部署で、現場経験豊富な職員が、知見を生かして活躍しています。

現場での経験を生かして、
よい環境づくりを
頑張ります！



収穫

研究結果を調査

大型のトラクターで収穫します。また、研究者の指示を受けながら必要なデータを計測。例えば、麦の場合は穂の数、大豆の場合は茎にある節の数などを調査します。これらは研究に用いられる重要なデータです。

栽培

すくすく育つように徹底管理

害虫の防除や、植物によって必要な手入れをしながら栽培します。こういった防虫剤を散布するか、肥料は何を用いるかなども生育に関することなので、研究者と密に連携を取りながら決めています。

ほ場整備・播種

土壌を整え、栽培スタート

ほ場を耕し、肥料を撒いて、作物を育てる準備をします。大豆やイモは5～6月、麦は11月頃に播種を行います。播種をする際は3列ごとに異なる系統の種をまき、同時に複数の系統を栽培することで、その生育を比較します。

畑作の大きな流れ

業務に欠かせない 農業機器

広大な試験場で栽培を行うため、ほ場の整備や収穫など、さまざまな作業において農業機器が用いられます。その種類は小さなものから大きなものまで多種多様です。安全に使用できるよう日頃のメンテナンスが重要です。また、スマート農業に用いられる最先端機器の活用場面も増えてきています。ITの力で効率的に作業が進められています。



メンテナンスも
大切な仕事です！



功労者
インタビュー！

技術開発の裏側に迫る

生産者や研究員の課題に応える技術支援部。そのアイデアの中には、創意工夫が評価され、表彰や特許取得されたものもあります。今回は、注目を集める4つの取り組みをご紹介します。こういった実績を技術支援部内で情報共有し、互いに切磋琢磨することで新たなアイデア創出につなげています。



「サツマイモ交配鉢洗浄機」により創意工夫者として研究所内にて表彰

九州沖縄技術支援センター

九州第3業務科
福重 総括作業長

現場の課題

品種改良のためのサツマイモ採種では、年間4千鉢にのぼるプラスチック鉢を使用。使用済みの鉢は一つずつ手洗いしており、作業姿勢や労力面で大きな負担となっていました。



これで解決！

食洗機をヒントに、スプリンクラー式の洗浄機を考案しました。レーンに鉢を並べ、次々と鉢を乗せていくだけで、流れ作業によって洗浄されます。スプリンクラーは水流で回転するため、電力も使いません。



Voice

九州第3業務科は、4つの班で構成され、サツマイモの育種、野菜栽培、現地ほ場での実証試験、ドローンを活用した生育調査など多岐にわたる活動の支援を行っています。これら4班の班長を総括し、契約職員のスケジュール管理などを行うのが私の主な業務です。また、他地域の技術支援センターとも業務連携しながら、協力や情報交換も行っています。職員の手間を省き、業務をより効率的に進めるための機材を開発するべく、常に思考を巡らせています。



「播種ロール及び播種装置」で特許を取得

西日本技術支援センター

西日本第1業務科 福山技術チーム
佐藤 チーム員・福岡 チーム員

現場の課題

播種の際にトラクターに取り付けて使用する播種ロール。従来の製品は少量播種に向かず、調整に手間を要し、また摩耗に対する課題も農家から挙げられていました。



これで解決！

相当数の試作を経て、1粒ずつ、3粒ずつといった少量播種に対応する播種ロールを開発。ロールの付け替えだけで容易に対応が可能になり、また耐久性もアップしました。



Voice

【佐藤チーム員】主に水稻、小麦、大豆の研究支援や現地試験を実施している当センターでは、水田の雑草除去試験や小規模農家向けの機材改良に力を入れています。私は地域営農・生産環境班の班長として、研究者からの週間作業予定の調整や班員の配置を担当。土壌チームの一員として出張先での作業も行います。【福岡チーム員】所内の環境整備や他チームの支援要請に応じて幅広く業務を担当しています。技術力の高さと相談しやすい雰囲気がある当センターの魅力。力を合わせて研究の円滑な進行を支えています。



「播種床形成器」で特許を取得

東北技術支援センター

東北第1業務科
藤澤 技術主任

現場の課題

畝の上に溝を作り、溝底に播種を行う栽培技術を扱う研究者からの相談がきっかけ。「溝を作るのと同時に播種を行う作業機を作れないか」という悩みから始まりました。



これで解決！

土や肥料の流れを予測して何度も試作を重ね、船形の部品を開発。九州沖縄農業研究センターと連携し実証を進め、現在市販機として販売されています。実際に農家の皆さんに活用いただいています。



Voice

当センターは、岩手、福島、秋田の3県に4拠点をもち、各地域の農業研究を支援する役割を担っています。水稻、麦、大豆、野菜、果物、飼料作物など、多岐にわたる作物の試験研究をサポート。東日本大震災に伴う原発事故被災地域での営農再開にも貢献しています。盛岡にある野菜班の班長として、玉ねぎ、いちごなどの栽培管理や調査補助、機械の開発などを行っています。職場の雰囲気づくりも業務の一環と捉え、心がけているのは常に笑顔でいること。皆さんとのコミュニケーションを一番大切にしています。



「ハウスバンド巻き取り機」で文部科学大臣表彰 創意工夫功労者賞を受賞

北海道技術支援センター

高橋 センター長補佐

現場の課題

積雪に備えてビニールハウスのビニールを外す機会が多い北海道。ハウスのビニールを固定するバンド紐は、ロール状に収納しますが、ねじれないよう手で巻き取る作業に時間も労力もかかっていました。



これで解決！

リールのような手動巻き取り機を考案。バンドの巻き込み口を平らにして、ねじれが起こらないよう工夫しました。巻き取り済みバンドの取り外しも容易で、作業時間は従来の1/3程に削減することができました。



Voice

札幌と芽室の2拠点において、研究支援を行っている北海道技術支援センター。水田作、畑作、酪農といった北海道地域の農業課題に対応するための研究を支援しています。私は主に備品管理や資料作成、各種手続きなどさまざまな事務を担当し、職員が研究支援に専念できる環境づくりをサポート。職員同士のコミュニケーションが盛んに行われており、若手職員も活発に意見を交わし業務にあたっています。誰かの役に立つ瞬間や、案件をスムーズに進捗できた際に大きなやりがいを感じています。

フレッシュなやる気と熱意で 研究活動を支えていく

技術支援部には若手からベテランまで多くの職員が所属しています。
今回は、4人の若手職員に仕事への思いや今後の目標などを聞きました。

農研機構ダイバーシティ
推進キャラクター
「おむすびなろりん」

和田 裕太

つくば第1業務科所属。さつまいもや稲、キャベツの栽培管理を担当。スマート農業といった最新の研究支援も行う。

趣味 ゲーム

森山 萌

つくば第7業務科中家畜技術チーム所属。豚の飼育や健康管理など、特に豚の分娩管理を行う。

趣味 読書

緒方 亮太

つくば第3業務科谷和原畑作技術チーム所属。さつまいもや大豆、麦の栽培管理や農業機械の整備を担当。

趣味 登山、キャンプ

新田 詩乃

つくば第4業務科所属。稲や大豆、麦の栽培管理や農業機械の整備を担当。遺伝子組換え植物の管理や遺伝資源の種子増殖なども行う。

趣味 乗り鉄、ドライブ

「仕事の進め方や担当している業務について教えてください。」

新田 支援業務を行う上で、研究の目的を理解することが非常に大切です。私が所属する部署では、年度の始めに研究者の方々と打ち合わせを行い、研究目的や内容、年間を通じた栽培管理のスケジュールを共有します。スケジュールを見ながら、日頃から研究者と密に連携して作業を進めています。

緒方 農作業は天候に大きく左右されるので、研究者とのコミュニケーションは重要です。常に天気予報を確認しておいて、予報によっては作業内容の変更

を相談することもあります。

森山 私が携わっている豚の分娩においては、豚の健康状態を報告したり、研究内容に応じて与える餌の量や定期予防接種のタイミングを調整したりといった連携を行っています。食べ残した餌の量や体重も重要なデータなので、計測と研究者への報告は欠かせません。

和田 私は以前は香川県にある普通寺研究拠点でみかんの栽培管理に携わっていたのですが、そこでは業務に必要な資格を多く取得しました。ユンボパーショベルや高所作業車の運転資格など、取得した資格の数は20以上になります。簡単な道の補修工事なども自分たちで行っている。扱える乗り物が年々増えてきています。

「どのような時に喜びややりがいを感じますか。」

緒方 研究機関ならではの機械に触れる時です。大型トラクターや最新の農業機器など、一般農家ではなかなか扱わない機械が農研機構には揃っています。経験とともに思い通りに動かせるようになってきて、作業がスムーズに進んだ瞬間はやりがいを感じます。

和田 研究者の皆さんに喜んでもらえることが何よりもやりがいです。香川県に配属されていた時、研究者のリクエストを受けて、土壌中の水分を測る計測器の精度を高めるための工作物を作り出した。「おかげで研究が上手くいった」と言われた際の喜びは今でも忘れません。

森山 研究の順調な進行に貢献できた時はうれいです。豚は体調を崩しやすいので、元気に走り回る姿を見ると安心します。大人だと体重が100〜300kgとなる豚の世話するには体力を要しますが、研究者から感謝されると頑張ってきたよかったです。

新田 私と研究者から信頼を得て、栽培管理や収穫作業を任せてもらえるようになると成長を実感します。また、誰一人怪我なく作業を終えるのも大切なことです。「助け合って楽しく安全にいい仕事をする」という思いを胸に、先輩や研究者の方々と協力しています。

「農研機構を就職先として選んだきっかけを教えてください。」

森山 高校で果樹栽培を学び、農業大学校に進学後は畜産を勉強していました。漠然と農業に携わる仕事をしたいと考えていた中、先生から紹介されたのが農研機構でした。全国の拠点で多様な研究を行っており、その支援ができる点に魅力を感じ、入構を決めました。

緒方 森山さんとは農業大学の同級生で、私も先生からの勧めがきっかけです。学生時代に経験した水稲栽培の知識を生かしながら、さまざまな栽培経験を積めると思い、入構しました。

和田 私はつくば市出身で、研究学園都市の中で育ったこともあり、研究所で働くことが長年の夢でした。大学では動物の治療に関する分野を学んだので、農研機構で動物関連の研究支援に携わりたいと考えました。

新田 高校では土木分野について勉強し、鉄道会社で技術職員を務めた後、農業大学校に進学して園芸学を学びました。技術支援職を選んだのは、私たちの生活に欠かせない食と農の研究を支える仕事に魅力を感じたからです。最近は農業と土木のつながりが見えてきて面白さが増えています。

「今後の目標をお願いします！」

緒方 農研機構は国の研究機関ということもあり働きやすい環境です。これから幅広い経験を積みながら知識・技能を高めていきたいです。

森山 農研機構ではさまざまな職種が協力して研究を進めており、人としても多くを学べる環境だと思います。今は畜産に関わっていますが、今後は作物栽培も経験して知見を広げたいです。

新田 科や拠点によって扱う内容はさまざまですが、多様なキャリアを積める点が魅力です。身につけた技術や知識をしっかりと自分のものにして、研究に貢献していきたいです。

和田 私は異動を経験した身ですが、勤務地が変わるたびに新たな仕事に出会えてわくわくします。将来の農業や暮らしに役立つ研究を支援する仕事に興味がある方には、農研機構はびったりの場所だと思います。

「試行錯誤をしながらも日々成長を実感。研究に貢献できた喜びを糧にしていく。」

「一人前を目指して頑張ります！」

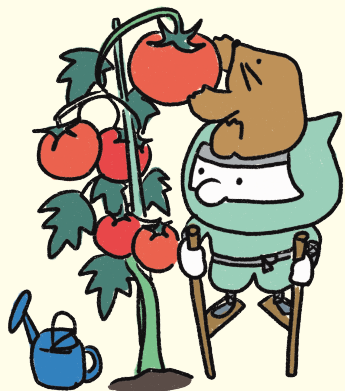


編集後記

普段は目にすることのない、農業の研究開発の現場。取材を通して知ったこと、感じたことを、農研機構に入構したばかりの新米広報部員「なるすけ」くんが綴ります！

元気な動植物を 育てるために

以前、知り合いの農家の方からトマトの苗をもらったのをきっかけに家庭菜園に挑戦！毎日水をあげて大切に育てていたのですが、思うように収穫できませんでした……。頭を抱えていた中、広報なる36号では農業のプロが集まる技術支援部を特集することに。今回取材で伺った皆さんは、大きな愛を持って植物や動物と向き合っていて、その姿勢が秘訣なのだと実感しました。数々の研究成果は、栽培・育成のプロたちの存在があってこそだったんですね。早速、栽培のコツを根掘り葉掘り聞いて、今年こそはたくさんのトマトを収穫するぞ！

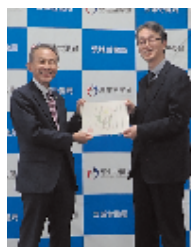


優良な「子育てサポート企業」として 「プラチナくるみん」認定を取得

農研機構は、次世代育成支援対策推進法に基づき、2025年2月4日、厚生労働大臣から「子育てサポート企業」として特例認定を受け、認定マーク「プラチナくるみん」を取得しました。

当機構は、2021年に「くるみん」認定を受けておりませんが、その後、勤務管理者による育休取得対象者への制度の個別周知、男性の育児参加等をテーマとした「ワークライフバランスセミナー」の開催、一時預かり保育室の利用推進など、男女ともに仕事と育児を両立できる職場環境となるよう、さらに取り組みを進め、このたびの「プラチナくるみん」認定となりました。

当機構はこのほか、女性の職業生活における活躍の推進に関する法律(女性活躍推進法)に基づく認定マーク「えるぼし」認定(3段階目)を、2017年に取得しています。今後も、職員が生き生きと働ける職場環境を整え、多様な人材が活躍できる職場風土の醸成を進めてまいります。



認定通知書交付式の様子
農研機構人事部長(左)
茨城労働局長(右)



「プラチナくるみん」認定マーク



「えるぼし」認定マーク



農研機構ダイバーシティ
推進キャラクター
「おむすびなろりん」

農研機構の
ダイバーシティ推進ページ

<https://www.naro.go.jp/diversity/index.html>



【なるトピックス】では、農研機構の旬な情報や注目のアレコレを紹介！

NARO TOPICS no. 36

🔊 プレスリリース

かんでんちよくは

乾田直播での計画的な雑草防除をサポート！

「ノビエ葉齢判定アプリ」を公開

種もみを直接田んぼに播く「乾田直播栽培」は、水を張らない生育初期に雑草が生育しやすく、計画的な雑草防除が欠かせません。中でも主要な水田雑草ノビエは、その葉齢が大きくなりすぎないうちに除草剤を散布することが推奨されています。今回開発した「ノビエ葉齢判定アプリ」は、水田に生えているノビエの写真から葉齢を判定。ほ場付近のアメダス情報をもとにその後の生長を予測した結果から、除草剤の散布時期を計画することが可能です。本アプリは以下の二次元バーコードよりダウンロードし、ご使用ください。



Google Play >>



App Store >>



PICK UP

なるチャンネル

NARO CHANNEL

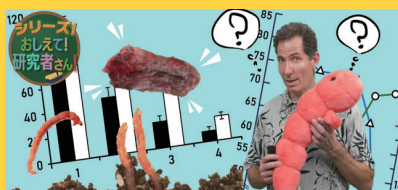


動画で見る

「おしえて！研究者さん！」

広報なる35号「特集 ミライを救う昆虫のチカラ」でも登場した、ネムリユスリカ。驚くべき生態を持ったこの昆虫について、研究担当者が分かりやすく説明している動画をご紹介します。

ネムリユスリカは、アフリカのサハラ砂漠の南に広がる半乾燥地帯に生息しており、体内の水分を失ってカラカラに干からびても死なないことで知られています。この動画では、広報誌にも登場したコルネット・リサーチ上級研究員が、ネムリユスリカの乾燥耐性の秘密について、分かりやすく解説しています。水で復活していく様子もご覧いただけますよ。



10分でわかる！ネムリユスリカの話

おしえて！研究者さん！
ネムリユスリカの秘密
～10分でわかる！驚きの能力

<https://www.youtube.com/watch?v=egN0qqvKfZs>



CHECK

農研機構の旬な情報やイベントをチェック！



X
https://x.com/NARO_IP



Facebook
<https://www.facebook.com/NARO.go.jp/>



農研機構は「みどりの食料システム戦略」を推進しています。

<https://www.maff.go.jp/j/kanbo/kankyo/seisaku/midori/>



アンケートに
ご協力ください

今回の「広報なる」はいかがでしたか？
今後の誌面作りの参考にさせていただきますので、
ご意見をお聞かせください。
次号以降にご意見を掲載することがあります。

アンケート回答はこちら

NARO読者アンケート



https://prd.form.naro.go.jp/form/pub/naro01/kohe_naro

